

伊都地方におけるカーネーション栽培について

1. はじめに

現在、伊都地方施設花き研究会のカーネーション部会は婦人が中心となって、15戸の生産者が90aの施設でカーネーション栽培に取り組んでいる。

高収益農業をめざして、施設農業の普及に力をいれていた昭和63年、小輪カーネーションを作り始め、最近ではスプレーカーネーションにも取り組んでいる。

今回は、6月定植11～5月収穫の作型で栽培している10戸の現況について紹介する。

2. 取り組みの現況

カーネーションは畝幅80センチ、株間20センチ中2株抜き6株植えで栽培している。定植は6月下旬で1.5回摘心を行い、労力の分配、長期出荷による収益の安定に努めている。導入品種は、スプレータイプの品種ではバー

バラ系が中心で、小輪タイプの品種ではスカーレットベルが導入されており、適地性や市場性を考えた品種選定が行われている。また、肥培管理について定植前に土壌分析等でチェックし、基肥の施肥量の決定など施肥技術に役立てている。

さらに、栽培講習会を定期的で開催し、品質の均一、向上に努めている。

出荷は、個選共販体制で、全量名古屋方面の市場に出荷している。

3. 今後の方向

低コスト生産へ移行するためにコスト管理の強化が、必要である。さらに栽培技術の向上、生産者相互の交流を図るため視察研修を、積極的に行いたい。

(伊都地域農業改良普及センター)

カーネーションの栽培状況

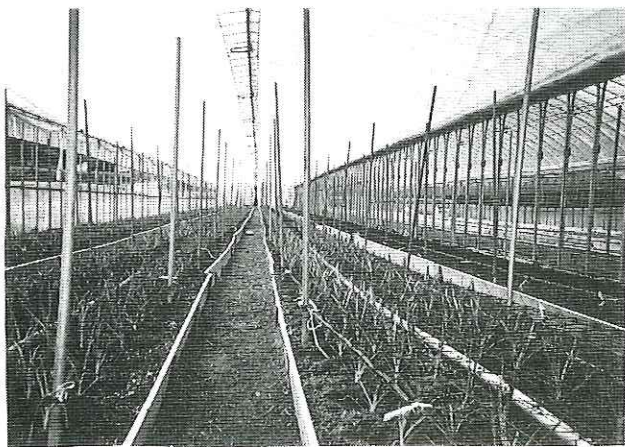


写真1 生育初期の状況

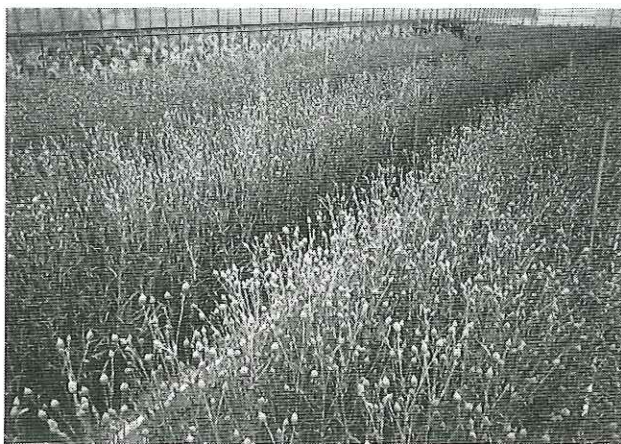


写真2 開花間近の状況